

# 歩くと足が痛い 足の冷え 閉塞性動脈硬化症に要注意。

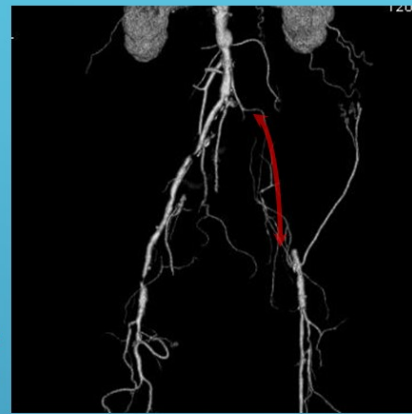
## 足の病気？血管の病気かも。

普段のように歩いていたなら、ももやふくらはぎが痛くなって歩けなくなった。休むと歩けるが、また痛くなった。

そんな症状がみられたら、閉塞性（へいそくせい）動脈硬化症の疑いがあります。「脚の血管にあらわれた動脈硬化」のことです。

最初のうちは痛みも弱く、休むと治まるので、一時的なものだろうと思いがちです。脚にシップをしたり、マッサージをする人も多いのですが、この病気は動脈硬化による血管の詰まりが原因なので、そうした方法ではなかなか改善されません。

放置していると、次第に歩ける距離が短くなり、やがて、歩いていないときでも痛みが出るようになります。さらに病状が進むと、最後には脚を切断しなければならないこともあるのです。特に、中高年の男性に多くみられるので、40代半ばになったら注意が必要です。

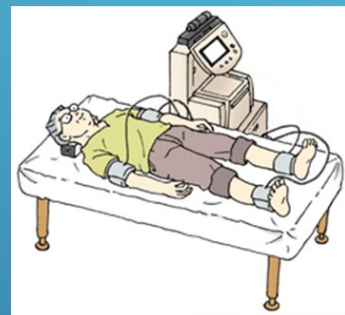


## 脳梗塞や心筋梗塞のリスクも高い。

閉塞性動脈硬化症にはもう一つ、とても怖い面があります。

それはこの病気と診断された段階で、脚だけでなく、脳や心臓などの血管にも動脈硬化が及んでいることです。つまり、脳卒中や心筋梗塞のリスクが高い状態になっているのです。

閉塞性動脈硬化症の5年相対生存率は約70%で、大腸がんとほとんど変わりません。脚が痛いだけだと放置している間に、受診が遅れ、動脈硬化が進んでしまうのです。



## 気になる方、まずは循環器科 血管の専門家に診察を！

まず足の皮膚温、足背の動脈拍動の有無や足の血圧を測定することで比較的容易に診断できます。

しかし、正確な病変部位診断のためには、循環器外科専門医を受診し、超音波、CT、MRI、血管造影の諸検査を受けることをお勧めします。また、神経性の合併例も散見されますので整形外科医も含めた相互診察も可能であれば必要かと思われます。

## 閉塞性動脈硬化症は、カテーテル治療・手術が必要になることがあります。

基本は適度な運動を行い、側副血行路の発達を促す運動療法ですが、血流障害が重度の場合にはカテーテル治療・手術（人工血管バイパス術）・血管再生療法などがあります。特にカテーテル治療は負担も小さく、効果的であり、再び血管が狭窄・閉塞する割合が少なくなっています。

